

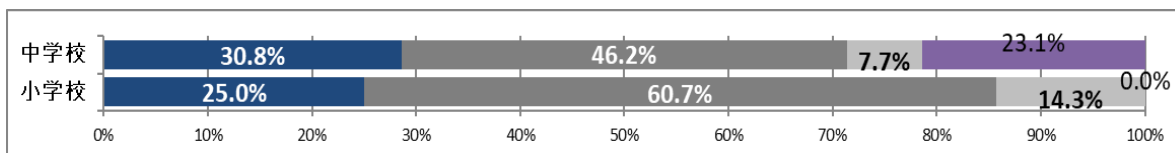
1 いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）について

(1) アンケート項目別集計結果について

※ やや課題がある、課題があるとした学校からの意見を併記
 《各項目の4評価の割合》

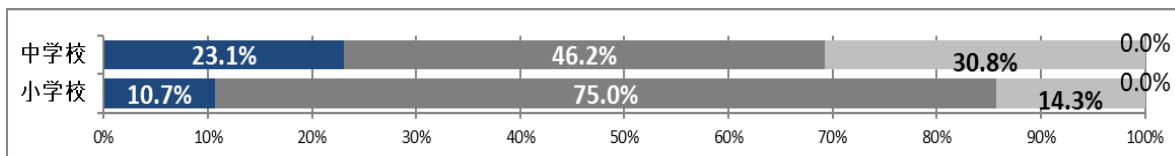


① 互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか。



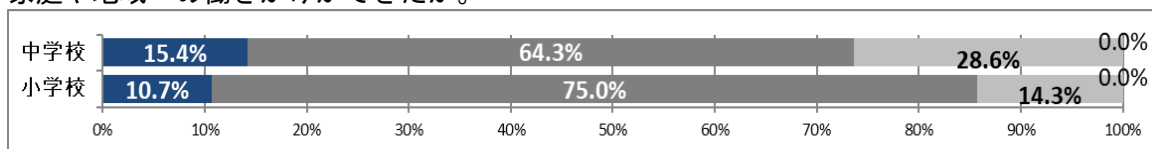
- 新型コロナウイルス感染拡大のため、児童が一堂に会する児童会活動等の実施が困難である。
- 2学期以降に児童会を中心とした異学年交流の機会などを検討したい。

② 命や人権を尊重する豊かな心を育むことができた。



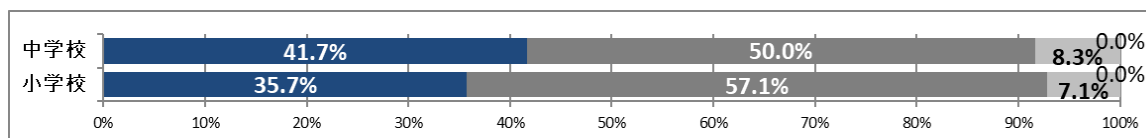
- ローテーション授業の実践を通して、チームで取組み、より質の高い授業づくりに努める。
- 校内研究を推進し、人権意識の啓発に努める。
- いじめ問題や人権問題は最重要課題と捉えているが、1学期については新型コロナウイルス感染拡大により、十分な時間が確保できなかった。2学期以降に道徳の授業はもとより、教育活動全体を通じて取り組んでいきたい。

③ 家庭や地域への働きかけができたか。



- 1学期の授業参観は実施できなかったため、2学期以降にいじめ防止に関する家庭・地域との連携を図る。
- 新型コロナウイルス感染拡大で毎年行っている人権授業参観は実施できなかったが、代替として1学期末に学級懇談会の日を設定し、各学級で「いじめ防止」に向け、家庭との連携について話し合った。

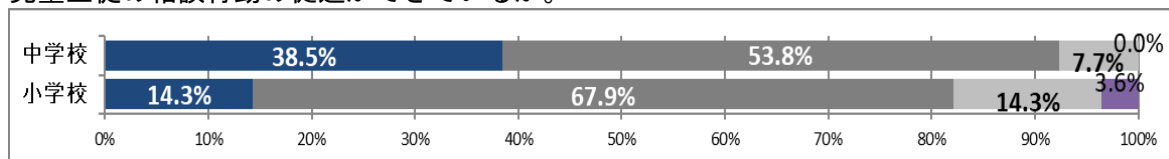
④ 学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できているか。 ※加古川養護学校を除く



- アセスの活用法を全教員が十分に理解できているかが課題であるため、校内の研修等を通じてアセスの活用について理解を深めていく。
- 要支援領域の児童への支援については計画中であり、研修（アセス）の報告会を実施予定である。
- アセス実施結果に基づき各学級での分析や今後の方針を立てているところであり、2学期以降にそれらをもとに、学年間や全教職員での共通理解を図るとともに、SCやSSWの意見も取

り入れながら、対策を検討し、実践していく予定である。

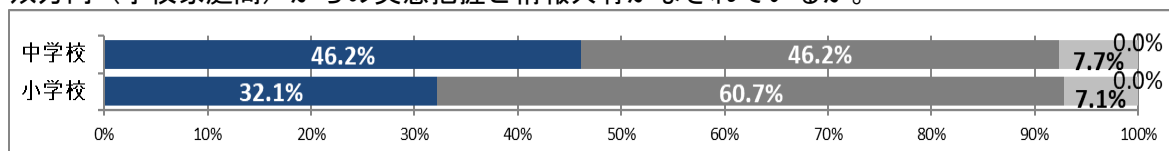
⑤ 児童生徒の相談行動の促進ができているか。



○心の相談アンケート及び教育相談を9月に実施予定している。

○心の相談アンケート及び教育相談は実施できていないが、学校独自のアンケートによって児童の状態を把握している。

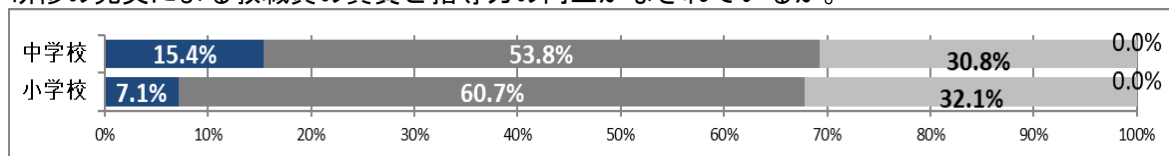
⑥ 双方向（学校家庭間）からの実態把握と情報共有がなされているか。



○6月の教育相談、7月の個人懇談と児童の家庭での様子やいじめの有無を確認したが、学校での様子を工夫して発信し、信頼を築く。

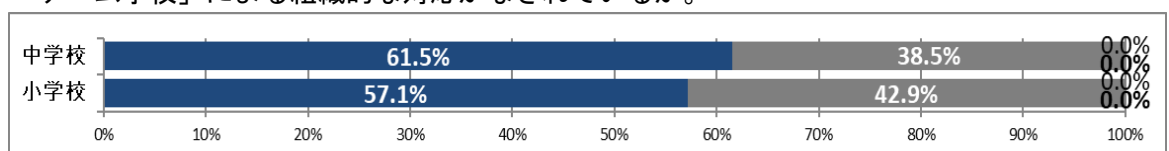
○家庭訪問や三者懇談の他、平素から家庭連絡等において、学校と保護者との相互の情報提供や共有を図っている。今後も「いじめ見逃しゼロ」と早期発見・早期対応を進めていくと同時に、信頼される学校づくりに向けた保護者対応に努める。

⑦ 研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされているか。



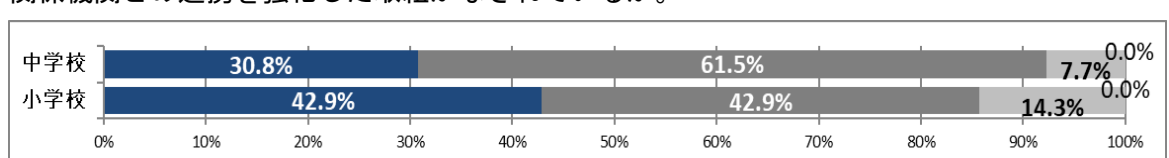
○新型コロナウイルス感染症のための臨時休業措置により、1学期は研修の機会を確保できなかったため、2学期以降に校内研修及び校外研修の機会を充実させる。

⑧ 「チーム学校」による組織的な対応がなされているか。



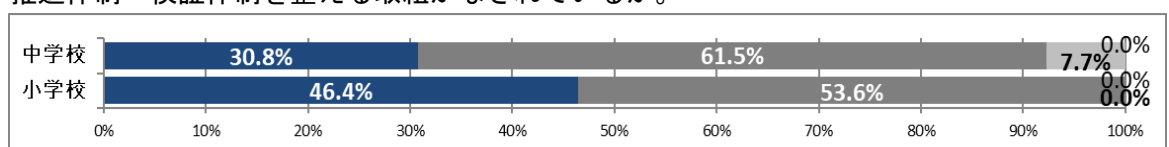
※すべての学校が「おおむねできた」以上の自己評価であるため、改善点についての記述なし

⑨ 関係機関との連携を強化した取組がなされているか。



○2学期以降に情報モラル教室やインターネットトラブル防止講座を検討している。

⑩ 推進体制・検証体制を整える取組がなされているか。



○いじめ対応チームについて、様々な機会を通じて周知を行っていく。

(2) 学校において重点的に取り組んでいる内容について（各学校からの報告より）

《小学校》

- ・学期初めに「いじめをしない させない 見逃さない！」宣言を行い、いじめに関する掲示物を全教室に掲示した。
- ・協同的探究学習やすべての児童が参加・活躍できる「わかる授業」づくりを進め、達成感や成就感、自己有用感を育むようにした。
- ・児童会主催のあいさつ運動を実施した。
- ・学校独自のアンケートを実施し、児童の様子への把握に努めた。
- ・理由が明確でない欠席児童への電話連絡及び3日以上欠席児童に対する家庭訪問を実施した。
- ・児童会が主体となってスローガンを設定した。
- ・児童朝会において「いじめに対して傍観者を作らず、自分から行動をおこすこと」「自分のいいところを知る」「友だちのいいところを見つける」活動を呼びかけた。
- ・校長先生が医療従事者や感染者への配慮や新型コロナウイルス感染拡大における新しい生活様式について話をを行った。
- ・月に1回の職員会議において気になる児童について情報共有を行っている。
- ・学校のホームページに「お知らせのページ」を新設し、学校、児童の様子について積極的に情報発信をした。
- ・通常登校再開後すぐに「特別の教科道徳」でいじめに係る読み物教材を活用し、「いじめの4層構造」等についての理念を児童と共有した。

《中学校》

- ・月に一度、生活アンケートを行い、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいる。
- ・「いじめ」に対する教職員の認識をさらに変え、より些細な友人間のもつれやトラブルもいじめとして捉えて対応し、早期解消を目指している。
- ・いじめや不登校の対応を迅速にするため、生活ノートを充実させるように心がけ、公開できるエピソードは生徒や保護者に発信し、温かい雰囲気づくりに取り組んでいる。
- ・インターネットの使用について生徒会中心に約束事を考え、いじめ防止の啓発運動を行った。

2 学校生活に関するアンケート（アセス）の結果と取組状況について

《実施時期 令和2年度1学期末（7月末）までに各学校の実情に応じて実施》

(1) アンケート実施率について

小学校

	3年生	4年生	5年生	6年生
アセス実施率	99.5%	99.7%	99.8%	99.4%
未実施人数 ※	12人	7人	6人	15人

中学校

	1年生	2年生	3年生
アセス実施率	99.2%	97.7%	97.9%
未実施人数 ※	18人	50人	46人

※特別支援学級に在籍しアセスの実施がなされない児童生徒、または、長期欠席により、学校での実施ができない児童生徒

(2) 学校生活に関するアンケート（アセス）実施後の対応について

事後対応の内容	小学校	中学校
学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて学年で情報共有できている	100%	100%
学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて個別支援をしている	100%	100%
非侵害的関係の値が40未満（要支援）の子どもについて確認をしている	100%	100%

(3) 対象者及び結果 (令和2年度)

単位：人

		要支援レベル1		要支援レベル2		要支援レベル3		要支援レベル4		実施人数
小学校		73	0.8%	392	4.1%	776	8.1%	764	8.0%	9,607
	3年	36	1.5%	129	5.4%	247	10.3%	182	7.6%	2,396
	4年	16	0.7%	130	5.4%	194	8.1%	214	8.9%	2,392
	5年	9	0.4%	64	2.6%	142	5.8%	205	8.4%	2,433
	6年	12	0.5%	69	2.9%	193	8.1%	163	6.8%	2,386
中学校		17	0.2%	170	2.5%	391	4.3%	624	9.1%	6,846
	1年	3	0.1%	35	1.5%	103	4.4%	179	7.7%	2,323
	2年	10	0.4%	63	2.8%	184	8.2%	216	9.6%	2,255
	3年	4	0.2%	72	3.2%	104	4.6%	229	10.1%	2,268
計		90	0.5%	562	3.4%	1,167	7.0%	1,388	8.4%	16,453

※要支援レベル1…学習、対人関係ともに要支援領域で、生活満足感も低い児童生徒

※要支援レベル2…学習、対人関係のどちらかが要支援領域で、生活満足感も低い児童生徒

※要支援レベル3…学習、対人関係は適応領域だが、生活満足感が低い児童生徒

※要支援レベル4…学習、対人関係、または両方が要支援領域だが、生活満足感が高い児童生徒

《昨年度同時期と比較して顕著に変化した部分》

○小学校3年生において要支援レベル1の児童数が約2.5倍に増加。要支援レベル2～4においても増加している。

○中学校2年生において、要支援レベル1の生徒数が10人おり2倍に増加。ただし、当該学年が1年生時(昨年度)同時期の結果においても10人であった。

(4) 非侵害的関係の値が要支援領域の児童生徒について

(アセス実施数を分母として非侵害的関係の値が要支援領域の児童生徒の割合を算出)。

小学校

(単位：人)

学年	3年生	4年生	5年生	6年生
令和元年度	150	101	115	89
令和2年度	113 (4.7%)	68 (2.8%)	65 (2.7%)	60 (2.5%)

○令和元年度と比較するとすべての学年で要支援児童は減少している。

○小学校3年生において非侵害的関係の値が低い児童が多い状況である。

中学校

(単位：人)

学年	1年生	2年生	3年生
令和元年度	48	67	38
令和2年度	31 (1.4%)	49 (2.3%)	35 (1.7%)

○小学校に比べ、どの学年も低い割合である。

○令和元年度と比較するとほぼすべての学年で要支援児童は減少している。

○同一学年で要支援領域の生徒数が多いケースもあり、第2回のアセスにおいて十分に経過を見守る必要がある。

(5) 学校生活に関するアンケート(アセス)の結果についての聞き取り結果から

(要支援レベル1の児童生徒に対する支援について)

《小学校》

- ・友人サポートの値を高めるために協同学習場面を積極的に取り入れるとともに、本人の自己肯定感を高めるために、出来ること、頑張っていることを積極的にほめていく。
- ・SAを効果的に配置し、支援の必要な児童に重点的に関わる。
- ・学習に気持ちが向かないときはワークスペース等の気持ちを落ち着かせる場所を作るなど、環境面の整備を行っている。
- ・支援の必要な児童が周囲の友だちとのつながりを作られるように学級担任がきっかけを作っていく。
- ・保護者と友人関係や学習に関する情報を共有していく。

- ・児童からの訴えに対しては、まず落ち着いて状況を整理させ、担任等が分かりやすく説明することで児童が納得した後に帰宅させる。
- ・個に沿った目標設定を行い、スモールステップで学習をすすめ、自信をつけさせるとともに、友達との関りの場を設定するなど支援していく。

《中学校》

- ・生徒自身が自分をコントロールしようと努力していることについて周りの生徒が認め、声掛けが出来るように支える。
- ・担任がクラスを巻き込みながら人間関係作りを構築できるようにサポートする。

3 心の相談アンケートについて

(1) 実施時期 1学期から9月末まで【各小・中学校で実施時期を決定】

(2) 対象者数 (小学校3年生～中学校3年生)

	小学校 (28校)	中学校 (12校)	全体 (40校)
心の相談アンケート実施人数 (実施率)	9,671人 99.3%	6,823人 97.7%	16,494人 98.6%

4 教育相談について

(1) 対象者数 【小学校1年生～中学校3年生まで】

	小学校(28校)	中学校(12校)	全体 (40校)
教育相談実施件数 (実施率)	13,799人 (97.8%)	6,795人 (97.3%)	20,594人 (97.6%)
いじめに関する情報件数 (内、認知件数)	502件 (137件)	100件 (19件)	602件 (156件)